

# 守りましょう。ペットの健康と安全

【青森県動物愛護センターからのお知らせ】



ペットの住環境を見直してみましよう！！



## 1 温度・湿度

夏は、暑い室内（車内）で熱中症にかかり、動物病院に運び込まれるペットがいます。暑さ・寒さ、湿度や日光など、種類や特性によって生活に適した条件は様々です。上手に環境を整えてあげましょう。

## 2 施設

ペットを飼うときには、種類や数に応じた広さや設備が必要です。犬は平面的に歩き回ることが好きなので、散歩に行けないときは、短い鎖でつないだままにしたり狭いケージに閉じ込めたりせず、ある程度の広さの空間で運動できるようにしてあげましょう。狭い室内で猫を飼うときには、立体的に移動したり、高い位置にくつろげる場所を設けるなどの工夫をしましょう。また、ペットの近くに刺さりやすいものや不安定な台、医薬品や洗剤などの口に入れたら危険なものがないか、普段からチェックし、ケガや誤食事故を防ぎましょう。

## 3 掃除

糞尿や抜け毛などは、放置すると近隣の迷惑となるだけでなく、寄生虫や病原微生物の温床となり、ペットと人の健康に悪影響を及ぼします。ペットは生活空間が限定され、汚れても自分で掃除することができません。

衛生管理は飼い主の責任でしっかり行いましょう。

#### 4 食べ物 ペットにお菓子や唐揚げなどを与えていますか？

動物は人とは違う生き物です。必要な栄養素や栄養バランスも異なります。種類や特性、成長段階や体調に合わせて適切なエサを適切な量・回数で与えなければなりません。味付けされたお菓子やそうざいは、ほとんどの場合、動物にとって刺激が強く、カロリーや塩分も過剰です。ネギ類や干しぶどうのような一部の野菜や果実、チョコレートを使用した菓子類などには毒となる成分が含まれています。煮干しやかつお節には、尿結石の原因となるミネラル分が豊富に含まれています。「喜ぶから」「栄養がありそうだから」と思って与え続けると、ペットにとって生命の危機を招くことがあります。与える前に、よく調べましょう。

外での「拾い食い」にも要注意です。

#### 5 受動喫煙 人の生活空間では、タバコの副流煙被害を避けるため、分煙などの取り組みが積極的に行われていますが、愛煙家の飼い主さんは、ペットにも気を遣っているでしょうか？

タバコの副流煙には多くの化学物質が含まれており、呼吸器疾患だけでなく発がん性やアレルギーの原因となることが知られています。化学物質は、室内では床近くにたまりやすく、体が小さくて姿勢の低いペットは、人よりも多くの影響を受けます。特に、体をマメに舐める習慣のある猫では、体毛に付着した物質を直接飲み込むことになります。

大事なペットを受動喫煙の害から守りましょう。

